

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 米大統領の英語 (7)

(A Basic Way of Reading Trump-Language)

後 藤 寛

2018 年は 6 月の史上初の米朝首脳会談というニュースに世界は注目した。したがって本連載では前回まで、Trump 大統領の特に 5 月～6 月のツイートに焦点をあてる形にした。今回は後追いニュースとして以下を見てみる。

- ① Just spoke to King Salman of Saudi Arabia and explained to him that, because of the turmoil & disfunction in Iran and Venezuela, I am asking that Saudi Arabia increase oil production, maybe up to 2,000,000 barrels, to make up the difference ... Prices to high! He has agreed! (June 30, 2018)

▲ (文中の中略は原文どおり)。Trump 大統領はイランとベネズエラの情勢混乱で石油価格が高騰しているので、Salman サウジアラビア国王に生産を 200 万バレルまで増やし補てんするよう要請した。イランを敵視するサウジアラビアはアメリカに協力姿勢をとり、Salman 国王はこれに同意したという内容である。

太線語 turmoil はこの音と語形から、Basic 語 **turn** などを同系語として導き出すのが音感と語感と言えよう。「ぐるぐる回ること」が簡素な共通の原義(root sense)である。他の同系語として Basic 語の **trouble, thread**、プラス α Basic 語に **storm, contour** (輪郭・輪郭線)、un-Basic 語には disturb, tour, tournament などきわめて多くの語が英語となっている〔他の多くの例は拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(45)参照〕。

次の太線語 increase は、前に modal auxiliary verb (法助動詞) の should が略され動詞 V であるが、名詞 N の **increase** は Basic 語である。increase は発生源としての印欧祖語の語根(PIE etymon)の推定音素形が/KER/とされ原義は「穀物の受粉核(芯)」で、これからも多くの英語が誕生した。他の Basic 語に **cord, curve, record**、さらに /k/ から [h] (/k/ → [h]) となった **heart** など同系で、「丸さ」をもつ意味も含めている語群である。un-Basic 語には core, corn, create, courage, cereal (穀類・シリアル) など多くの語が同系語(paronym)として一括される〔同上拙著、第二部、例(14)参照〕。

最後の太線語 barrels (バレル・樽) は Basic 語 **board**、プラス α Basic 語 **bar**、un-Basic 語 **barrier, barricade, embarrass, border** など同系〔同上拙著、第二部、例(81)参照〕。

文中の下線部 I am asking ... であるが、一般に be + -ing は be in the act [process] of -ing でもあるが、これを深層構造に deictic (直示的) な <HERE>, <THERE> をもつ分詞構文と見なすことができないか? である。この場合であれば I am here, asking ... と見るのである。さらに be + -ing は <WITH> をもつ広義の attendant circumstances (付帯状況) と見ることも可能であろう。身近な例では He is taking his hat off. は <He is here / there, taking his hat off.> / <He is here / there, with his hat being taken off.> のような仮説的分析であるが、ここではこれ以上は触れない。

文中もう 1 つの下線部 Prices to high! は「価格が高騰している!」の意味で、ここでは **high** は名詞である。空間詞の **to** が意味決定に重要な役割を果たす例である。

なお、上のツイート文が発話されたものと想定すれば、**各語の意味を音感と語感の一体化から感知**するとともに**全体の意味を構文力から把握**するのであるが、重層構造をもつ mixed sentence (混文) である。この文はコンマによる punctuation (句読法) が

意味的区切れ目をよく示す例と言える。理解法上の流れは、＜私＞ → ＜説明＞ → ＜SA－Sal.国王＞ / 理由：＜I & V－情勢混乱＞ / ＜私＞ → ＜要請＞ → ＜SA－石油増産 = 200 万 b.> / 理由：＜補てん＞ // ＜価格高騰＞ ⇒ ＜Sal. 同意＞ // のようになる。英⇒日の通訳者のメモ書きなら、さらに省略や記号化もされよう。

英文の理解上で、意味的区切れ単位での語数としては**7±2 語**が memory span（記憶範囲）だとされている。すなわち、**われわれの頭脳の情報処理能力**上からも、5～9 語が文のスムーズな意味理解に関わる限界というわけであるが、このツイートはその範囲に収まってはいる。音声化されても一定の英語力があれば理解と記憶上で特に負担はないこととなるが、統語法的には単文(simple sentence)や重文(compound sentence)ではなく、混文(mixed sentence)である点がやや難点となろう。

聴覚処理上の問題もある。日本人は難なく聴ける、いわゆる声の抑揚としての英語の intonation ばかりをフワフワ聴いていて hearing 力がつかない。真の英語の sound は声(voice)のフワフワではなく筋の 1 本入った、張りつめた、1 本調子の氣息音(aspirated sound)である。口ではなく咽頭部(pharynx)で氣息音化し、強音節と弱音節により rhythm の谷間を形成しつつ流れる本物英語の sound そのものが聴取できるか？日本語民族と英語民族では英語の sound を聴く（hearing する）聴覚脳はまるで違う。特に米音では軟口蓋(soft palate)から鼻音(nasal)化もするが、大砂漠の展開する新大陸の自然環境・風土の中では、緯度の高いイギリスのような高周波英音が通りにくくなるため鼻音化させ、英音より米音はやや低周波音となったと説明できる。日本語民族の聴覚脳にはこの米音の周波数帯(passband)のほうが処理(tuning)しやすくなる。

② The United States is working very closely with the Government of Thailand to help get all of the children out of the cave and to safety. Very brave and talented people! (July 8, 2018)

▲タイで起きた出来事で、たまたま洞窟内にいた 12 人のサッカーチームの少年と 1 人のコーチが大雨の浸水のため出られなくなり、どんどん洞窟の奥へと 5 km も追い込まれた。アメリカ政府も救助のため軍兵士を派遣〔Okinawa（沖縄）からであった〕し、Trump 大統領が彼らの勇敢さと能力を称賛している内容である。当初は救助に 4 ヶ月ほどかかるとさえ言われたが、結果的に全員が約 3 週間後に奇跡的に救助された。

下線と破線で示した部分は日本人の不得意とする移動事象(motion event : ME)での起点(source : S) → 経路(path : P) → 着点(goal : G)の描写法と空間詞(spatial particle / space word)の用いられ方の例で、本連載(3)の①でも注目したし、上の①でもそれなりに見た。移動事象 ME は<FROM S → THROUGH P → TO G>で象徴的に示される構造だと言える。この例では THROUGH の P が埋没した<FROM S → TO G>から out of S to G として表層上に具現化している。ME は必ず<S から P を経て G へと至る>事象であり、この場合は「少年たち全員を洞窟から出し、安全にする」であるが、洞窟の経路 P は描写されていない。

from (out of) ... to では経路 P が具現化しない例は多いが、同時に起点 S の from (out of)も具現しないこともある。それだけしばしば起点 S も強くは意識されない。しかし to は常に着点 G が意識される。たとえば seven to nine persons (7～9 人) は from も through も表層上に具現しない例で、to nine の to のみで意味は理解される。

ME 事象で経路 P とともに起点 S も意識的にやや曖昧性もともなう不定性の特徴があるということである。たとえば come from overseas (海外から来る)などの from は焦点の不定な起点 S で、S₁, S₂, S₃ ...をもっている。一方、着点 G として*go to overseas とは言えない。これは go overseas (海外へ行く)となる。to, into, onto は着点 G が特定・指定される語で、overseas は着点 G をもたない。上の文例では to safety に意味

の核があり、... help get all of the children to safety. (子供たち全員を安全へと導く) の意味が前面に押し出される。いずれにせよ、get ... out of S and to G のような ME 事象での起点 S → 経路 P → 着点 G の線的英語思考に日本人は慣れる必要がある。

また、太線の語 talented であるが、Trump 大統領は人の能力をほめるときツイートでよくこの語を用いる。そもそも talent (タレント) の原義は「重さを測ること、重さを支えること」である点は注目されておいてよい。

実はこの talent は、atlas (地図帳) と同系(paronymic)である。ギリシャ神話に由来し、Atlas (アトラス) という巨人が最高神 Zeus (ゼウス) に背(そむ)く行いをしたため天地(地球)を支える重荷を負わされた。今日、地図帳にこの巨人 Atlas が地球を肩に背負っている挿絵の描かれたものを見ることがある。さらに Atlas は別な天罰を受け山に変えられたとも言われ、その山が彼の故郷でアフリカ北西部に位置するアトラス山脈だとされている。発生源としての PIE etymon の音素形は/TELs/として復元されているが、talent, atlas は子音[t], [l]の響きの痕跡を残している。ついであるが「テレビタレント」は英語では TV star, TV personality で、×TV talent とは言えない。

試問 上と関連するがその後、Trump 大統領は全員が救出された知らせを受け、タイの海軍特殊部隊に祝辞をツイッターに書き込んだ。それを下に示すが、ここでは用いられている 7つの空間詞をすべて空所とし試問の形としてみる。

それぞれ①~⑦の空所に **from, in, of, of, on, on, to** のうち、どれが入るか？

〔注〕SEALs : Sea, Air and Land Soldiers (海軍特殊部隊)

(①) behalf (②) the United States, congratulations (③) the Thai Navy SEALs and all (④) the successful rescue (⑤) the 12 boys and their coach (⑥) the treacherous cave (⑦) Thailand. Such a beautiful moment – all freed, great job ! (July 10 , 2018)

.....

こういう空間詞の空所補充は日本の学校機関で試験問題などにされるが、なぜそれが入るかの突き詰めた説明はなされない。空間詞は構文法からのみならず、すべて語釈の面からも説明できるはずで追究に値する。空間詞補充は一般には、めぼしいもののみが問題とされるが、この例のように段落 text (テキスト) 中のすべての空間詞を削除し空所補充の形で徹底的に扱うとよい (なお、空間詞には不定詞を導く to も含む)。

〔正解〕

① on	② of	③ to	④ on	⑤ of	⑥ from	⑦ in
------	------	------	------	------	--------	------

もう 1 つ語釈の面から、音声的にも弱音で日本人の不得意とする不定冠詞 a(n)、定冠詞 the、また無冠詞 φ をやはり徹底的に手早く扱うため段落 text 中の a(n), the をすべて削除し、文中に Δ 印を記し挿入していく手法がある〔テキスト分析(textual analysis)での 1 つのポイントでもある〕。筆者は大学で試験問題に頻繁に採り入れてきたが、段落文中で a(n) または the の挿入箇所の総数は採点上の便を考え注書きした。上の段落文であれば挿入は 6 箇所であるとヒントを与え、次のように Δ 印を記させその上に冠詞を挿入書きさせればよい。順に the, the, the, the, the, a が入る。

On behalf of ΔUnited States, congratulations to ΔThai Navy SEALs and all on Δsuccessful rescue of Δ12 boys and their coach from Δtreacherous cave in Thailand. Such Δbeautiful moment – all freed, great job !